

## とちぎインフラDX構想 Ver. 1.1 の概要について

## 1 概要

「とちぎインフラDX構想」は、県土整備部が今後インフラ分野において推進するDXの方向性及び具体的な取組内容を示すものであり、令和5年3月に策定・公表した。以来、各取組の着実な推進を図ってきたところである。

本構想の策定・公表から3年が経過し、デジタル技術は一層急速に発展している。また、本県においても、令和7年度に「新とちぎ未来創造プラン2026—2030」及び「県土づくりプラン(2026—2030)」が策定・公表された。

こうした社会情勢や県の上位計画との整合を踏まえ、今後の取組をより効果的に推進するため、本構想について所要の見直しを行った。

## 2 策定の背景

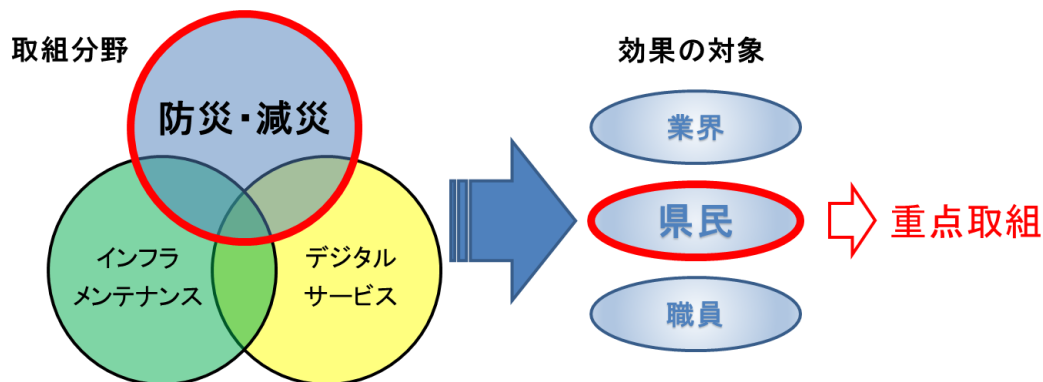
人口減少、少子高齢化に伴う担い手不足に加え、自然災害の激甚化・頻発化や新型コロナウイルス感染症拡大に伴う新しい生活様式の導入など、社会経済情勢が大きく変化しているなかで、インフラ分野においてもデジタル技術を活用した働き方改革や生産性の向上が求められている。

## 3 目指す方向性

- 1) 建設生産プロセスのあらゆる段階における効率化・高度化を進め、生産性を高めることにより、県民サービスの向上を図る。
- 2) インフラ分野の行政資料のデジタル化を進め、県民が利用しやすい環境を整備することにより、県民サービスの向上を図る。

## 4 今後取り組む分野と重点取組について

- 1) 「県民」「業界」「職員」に向けて、「防災・減災」「インフラメンテナンス」「デジタルサービス」の3つの分野に取り組むこととする。
  - ① 「防災・減災」：県民の生命と財産を守るため、ハード・ソフト対策が一体となったインフラ整備のデジタル化
  - ② 「インフラメンテナンス」：インフラの機能を適切に維持するため、河川や道路等の維持管理におけるデジタル技術の活用
  - ③ 「デジタルサービス」：インフラ分野の行政サービス向上のため、各種法令等手続のデジタル化
- 2) 「防災・減災」分野の中で、県民の生命と財産を守る観点から、特に災害リスクの情報提供や迅速な復旧工事等の県民に効果のあるものを「重点取組」として加速化させる。



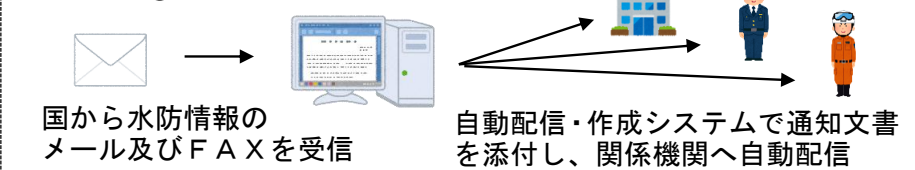
令和5年3月 2日 県HP公表  
令和8年3月31日 一部見直し

## 5 具体的な取組

### 防災・減災【重点取組】 9取組

- ① とちぎ地図情報公開システムの高度化
- ② ICT活用工事の促進
- ③ 水防に関する情報の自動配信化
- ④ 高水流量観測の効率化及び水位予測の精度向上
- ⑤ 土砂災害警戒情報システムの高度化
- ⑥ 河川の3次元点群データ取得と河川点検の効率化・高度化
- ⑦ 災害時における測量の迅速化
- ⑧ 道路施設点検の効率化・高度化
- ⑨ 維持管理データの高度利用化

#### 【取組例：③ 水防に関する情報の自動配信化】



#### 【取組例：⑨ 維持管理データの高度利用化】



### インフラメンテナンス 4取組

- ⑩ ダム点検・貯水池管理の効率化・高度化
- ⑪ BIM/CIMの導入推進
- ⑫ 建築BIMの導入推進
- ⑬ 施設保全に要するデータの一元管理化

#### 【取組例：⑪ BIM/CIMの導入推進】



### デジタルサービス 11取組

- ⑭ とちぎ地図情報公開システムによる都市計画総括図・縦覧図の公開
- ⑮ AIカメラを活用した渋滞状況解析及び情報発信
- ⑯ 電子申請システムの利用可能手続きの拡大
- ⑰ 無人自動運転移動サービスの導入検証
- ⑱ QRコードを利用した都市公園情報の発信力強化
- ⑲ 河川区域図のデジタル化
- ⑳ 遠隔臨場の促進
- ㉑ 建設業許可、経営事項審査等の電子申請システムの構築
- ㉒ 3次元点群データプラットフォーム
- ㉓ オンライン電子納品
- ㉔ とちぎ空き家サイトの運営

#### 【取組例：⑯ 電子申請システムの利用可能手続きの拡大】

